

公共施設適正配置・保全実施計画策定にかかる 北部エリア ワークショップ			
場所	江迎町地区文化会館インフィニタス	回数	第 1 回
日時	2017 年 07 月 13 日（木） 19：00－21：00		
参加者数	20 名		

【WS(ワークショップ, 以下 WS という)の今後の進め方について】

■WS の進め方

WS を導入する経緯と、今後どのように進めるのか（用途別に議論する、地域ごとに議論する、班ごとにテーマを分担して議論を進める等）改めて示して欲しい。

- ・ これまで地区ごとで話し合いを重ねてきたが、今回はどういった経緯で WS を開催することになったのか。今まで経験がない取り組みである。WS という言葉も難しく感じた。
- ・ 学校施設、公民館等公共施設の種類・用途別で意見を出し合った方がよいのではないかな。
- ・ 検討の対象となっていない施設（世知原町の支所、江迎中学校等）は除外し、まず対象となっている施設から討議したい。
- ・ 北部エリア全体ではなく、町村ごとに立てるという考え方もできるのではないかな。
- ・ 4 つの班で同じテーマで話し合うと時間不足になる恐れがあるので、各班で別々のテーマ（公共施設を分類する等）で話し合った方がよいのではないかな。

自分の地域における施設の利用状況等の意見を出してもらえると議論がしやすいと考えられる。一方で、地域の代表という責任を感じ、個人的な意見を発言することに不安がある。

- ・ 様々な地域からの参加者がいるので、自分の地域の施設の利用状況や必要性を述べてもらうという進め方がわかりやすいのではないかな。
- ・ WS のメンバーは地域に対して責任が課せられる可能性があり、心配である。
- ・ 個人的な意見を言って欲しいとのことだが、地域を代表して臨んでいるので、混乱する。

■WS の前提

具体的な話し合いを始める前に、各施設のデータや市の考え方等を示してもらい、議論を進めることが重要である。

- ・ WS 開催前に、参加する住民の立場・状況等を議論する必要があったのではないかな。事前に参加者を集めたり、個別に訪問したりして、十分に説明してもらうことが必要だったのでは。いきなり佐世保市の案に従ってください、というのはあまりよろしくない。
- ・ 何もない状態では、意見の出しようがないので、基礎的なデータを見て話し合いたい。
- ・ 地域によってさかんなスポーツを今後どうするのか等、佐世保市から考え方が示されなければ話ができない。佐世保市は地域住民から意見をまだ吸い上げていないので、10

月までにできるか疑問である。

費用に関するデータは、知らない住民がほとんどなので示してほしい。また、使われていない施設を残しても意味がないので、利用状況や築年数も踏まえて、住民にとって必要な施設は何かを洗い出すことが必要である。

- ・ 各施設の費用に関わる資料を提示して欲しい。築年数、利用者数、利用時間、利用時間帯、利用者の属性（性別・年齢等）が必要だ。利用頻度や、行事の開催状況等の情報も重要である。学校の場合は、生徒・児童数も重要。
- ・ 施設利用の重要度も必要。施設が廃止となると、どれだけ不便になるかも資料があるとよい。特に、支所と公民館は市民の利用率が高いだろう。
- ・ 施設の耐震性、周辺の危険度、バリアフリー化の推進度合い、ライフラインのようなインフラの整備度合いというデータも必要。
- ・ 統廃合・改修・移転等にかかる費用について、地域住民はほとんど知らないが、WSの正当性を担保するため必要。
- ・ 地域やエリアを跨いで公共施設を利用している場合、統合の議論がでるのかもしれないが、その場合は住民の人口動態に関する資料を元に協議するべき。
- ・ 築年数や竣工年だけでは、古いから壊す、という話になってしまう。古いから新築する、重要だから新築する、という考え方もあるべき。
- ・ 合併を推進しておきながら、人口が少ないので公共施設を潰してしまうことになると乱暴になってしまう。人口以外の観点も必要。

■WS への希望

住民の意見が反映される WS であってほしい。佐世保市には、縦割りにならないように、全庁的な連携を目指して欲しい。

- ・ 過去に参加した WS では、住民側の意見が反映されず、何のための WS だったか疑問が残った。今回の WS はそうならないで欲しい。
- ・ 公民館の建替についての話し合いでは、行政側の縦割りの都合で意見が反映されなかった。今回はこういうことがないようにしていきたい。
- ・ 町の状況は常に変わっているので、住民にヒアリングして情報収集をすべき。情報提供に関して佐世保市は真剣であるべきだ。
- ・ 佐世保市全体で、全庁的視点かつ網羅的に考えるべきだ。行政の縦割りの弊害があるかと思うが、部署を超えた連携が必要だろう。

【公共施設の現状と今後の方向性】

■適正配置の是非

施設の量ではなく、使われ方や重要度など、質を重視する必要があると感じている。一方で、公共施設がなくなることは、地域にとって影響が大きい。単純に用途や行政区で絞ることはせず、地域住民の意見を聞いて進めるべきである。

- ・ **WS** で公共施設の再編・集約といったテーマについて討議する必要性は痛感している。
- ・ 施設があれば便利という時代は終わったと認識している。地域住民の意見を聞いて、どのような方向で集約等をしていくのか検討すべき。
- ・ 公共施設の課題は、改修・統合・廃止の **3** 点に集約され、それを視点として施設ごとに討議すべき。
- ・ 単純に、同じ用途の施設を **1** つに絞るという話ではないはずだ。
- ・ 公共施設がなくなったところは寂れてしまうという懸念がある。単純に行政区（人口割）で決めていくのかはいかがなものかと思う。
- ・ 施設を減らす方向だけでなく、防災という観点から必要な施設は残し、それが経年劣化していたら建替え等を検討すべき。

将来的な構想、次世代の利用可能性も考慮するべきである。統合するにしても廃止するにしても、画一的な評価によって行うべきではない。また、何を評価基準として絞っていくのかについても、この **WS** を通して議論していく必要があるだろう。

- ・ 統合も廃止も、画一的な評価で行うべきではない。利用者数といった詳細なデータを踏まえて考えるべき。
- ・ 地域特性もあり、**1** つの町に **1** つ施設があればよいという問題でもない。地域の形によっては施設までの距離も異なる。
- ・ 将来的な構想や次の世代の利用ということも考えて議論すべき。
- ・ 市の施設評価をどこまで参考にしてよいかわからないので、今回の **WS** で施設の評価を行うべきだ。

■公民館・支所に関して

老朽化している施設は、他の施設との統合や建替をすることで、効率的に運営できる可能性がある。ただし、重要な施設なので、利用者にとっての使いやすさ（利便性、機能性）を踏まえて検討するべきだ。

- ・ 公民館も支所も、老朽化していれば、他の施設に入れるか建替えをすべき。その方が別々に建替えるよりも費用がかからず効率的である。
- ・ 江迎町の公民館は老朽化し、建替えの時期にきている。江迎町の支所は耐震化工事を施したが、商店街の人も使う駐車スペースが **10** 台で不足しており、また裏が崖で、利便

性・安全性に問題がある。いずれも統合が必要だと思われるが、この場で統合を進める上での懸念点を洗い出すことも必要だ。

- ・ 江迎町の住民センターはシルバー人材センターが使っているだけで、必要ないと思われるが、支所は絶対に必要だ。部屋数もあり、他の施設を集約化できる。
- ・ 小佐々町の支所は、中心部から離れており交通の便が悪く、利便性が低いという問題がある。他の町の支所は、比較的交通の便はよい。
- ・ 宇久島の公民館は老朽化しており廃止するという話だが、地域の人が集まる所がなくなる。建替えてほしいという思いがあるが応じてくれないだろう。
- ・ 鹿町の支所は鉄骨を補強するという話だったが、老朽化が激しく、機能性・使い勝手が悪いと、廃止する予定らしい。利便性は良いが、財政的には公民館に入れることもやむを得ないかもしれない。しかし、地元では現在の支所の場所に残して欲しいという声・要望もある
- ・ 北部エリアの公民館・支所は、行政の計画で統合するのではというような噂がある。

世知原町、吉井町では、既に公民館・支所の集約化が進んでおり、リフォームして他の機能を入れる、新しく建替える等が行われており、使い勝手が良くなる面もあるのではと期待されている。

- ・ 世知原町の公民館は支所との複合化が決定し、具体的な施設内容の話に入っている段階である。また公民館に付随する体育館の建替え・廃止について議論が進んでいると聞いた。
- ・ 江迎町は、公民館・支所ともに耐震工事を実施している。今後、それらの集約化に向けて検討が始まっていると聞いた。
- ・ 吉井町は合併してできた町という経緯から、町内に同じような公共施設があり、最終的には統合しなければという問題意識があった。そこで 30 年度完成予定で公民館を建替えている。旧役場、吉井町の支所、公民館、公民館付随の図書館や、福井洞窟のガイダンス施設との複合化をしようとしている。支所と公民館が合築されることで、使い勝手がよくなると想定され、有り難い。
- ・ 吉井町は支所が老朽化しており、耐震補強もできないと聞いた。

■スポーツ施設に関して

各地域に 1 つずつある施設等、一部の施設には集約の必要性を感じている。しかし、地域によって、他地域の施設の利用について習慣が異なり、減らして欲しくないという思いもある。利用状況等のデータと、住民の習慣、交通の便を踏まえて考えることが重要だ。

- ・ 各旧町に野球用のグラウンドがあるので、集約する必要性は感じている。
- ・ できればスポーツ施設は減らさないで欲しい。他地域に行って施設を借りるという習慣がこれまでなかったため、いきなり集約といわれても困る。

- ・ 交通利便性の高い都会とは異なり、田舎は交通の便が悪く、子どもは他地域への移動が難しいという点も考えるべき。
- ・ 吉井町のグラウンドと、もう 1 つ残すという考え方もある。吉井町ではソフトボール場・プールは使用頻度が高いと聞いているので必要なだろう。グラウンドがない地域の方も使用している。
- ・ 公民館に付随している体育館も集約化すべきかもしれない（江迎町・鹿町町）。
- ・ 厚労省が造った体育館は、老朽化しているものの残して欲しい。
- ・ 世知原町の場合、武道館・野球場・グラウンド等をどうしていくのか、というのが課題である。旧佐世保市内には野球場が少なく、世知原町の施設を利用する方が多い。
- ・ 鹿町町の千鳥越野球場は国体のために整備し直したらしいが不要ではないか。
- ・ 補助金で造った新しい施設は、再編が難しいのではないか。
- ・ 佐世保市としては体育館を減らそうという考えを持っているのかもしれない。

スポーツ施設は子どもだけでなく、一般住民にも利用されている（野球、ソフトボール、ゲートボール等）。スポーツ以外の使い方がされている施設もある。

- ・ 小中学校の使用頻度は高いのは当然であるが、吉井北部運動広場では一般住民も利用している（ソフトボール、ゲートボール等）。利用料金が安く、旧佐世保市内からの利用者もいる。
- ・ 社会人になってソフトボールをする人も多い。世知原町・吉井町はソフトボールが盛んで、市内でも優勝するほど強い。
- ・ 鹿町海洋スポーツ基地は、カヤック体験ができるうえに、町内で修学旅行生を受け入れて民泊体験も実施できるので、残すべきだと思う。

■遊休資産の有効活用

利用頻度が少ない施設は、維持管理に費用をかけるよりも、土地や施設を売却する等することで、空間や資金をうまく活用できるのではないか。

- ・ 使われていない施設を残しても意味がないので、その部分を有効に活用し、他の施設とうまく統合できればよい。
- ・ 費用に関しては、無駄な税金を投入しなくて済むように、つぶした公共施設の土地は売却して、集約化した施設の利便性向上のために資金源として使って欲しい。

【その他】

■学校施設の統廃合に関して

他地域でも統廃合の話は進んでいるようである。しかし、児童数や地理的な状況を踏まえて慎重に議論すべきだ。冷暖房の設備がない等の問題もあり、機能更新が必要な学校もあると考えられる。

- ・ 少子化の影響で、1 学年 1 クラス、1 クラス 20 名といった小学校もある。宇久島は小学校が 2 つあったが、統合されて 1 つが廃校になった。小学生は 9 名程度らしい。
- ・ 旧佐世保市内でも統廃合が進んでいるという。統廃合の話はいずれ出てくるだろうと思う。児童数の今後の推移を考慮するべきだ。
- ・ 地理的な問題、部活動の問題、地域教育の問題が学校施設に絡むので検討すべき。
- ・ 学校の体育館に冷暖房の設備がないところがある。
- ・ 鹿町では小学校が 2 つあり、小学校区の間に支所がある。1 つの小学校区で過疎化が進んでおり、支所が公民館に入れば、さらに進展してしまうのではないか。
- ・ 江迎町では、中学校は新築なので議論の対象にならないだろう。鹿町から江迎町の小学校に通っている児童もいる。

■学校施設の体育館等の一部開放について

学校の体育館やステージ等は、社会体育活動の一環でも子ども達が利用している他、一般住民も利用している。スポーツ施設等の他の施設とのバランスを見て、住民全体にとって利用しやすい形を考える必要がある。

- ・ 統廃合を考えるうえで、学校の体育館を住民が利用しやすくした方がよい。
- ・ 鹿町の小学校の体育館は、部活ではなく社会体育活動の一環として小中学生の利用率がかかなり高いので、残して欲しい。
- ・ 江迎町にはスポーツ施設が少ないため、小学校・中学校の施設（グラウンド等）を利用している。
- ・ 世知原町は文化祭を毎年行っているが、ステージのある体育館が必要である。公民館がなくなれば、学校の体育館のステージを利用せざるを得なくなる。

■公共施設の利用料金・利用状況について

合併後、地域間でお互いの施設を利用するようになったが、一方で、利用者が増えて使いにくくなった施設もある。また、合併後に利用料金が上がり、利用を控えるようになった施設もある。

- ・ 合併後は旧町村間でのバリアがなくなり、お互いの公共施設を利用するようになった。一方、一部のスポーツ施設は他地域からの利用者が増えて、旧町民が利用しづらくなっている。小佐々町では、高速道路ができたことで、体育館に他地域からの利用者が増え、土日に地元住民が利用できないという苦情も出ている。
- ・ 合併以前は毎月開催されていたバレーボール大会等の地域の行事がほとんどなくなってしまった。
- ・ 利用する際にどこに許可をとればいいのかわからず利用しづらい。
- ・ 一部の町では、合併前は町民が無料だったが、合併後は佐世保市の料金設定となった。最近佐世保市が財政的に厳しいため、徐々に上がっている。

- ・ ナイター設備の施設もあるが、それによって財政が厳しくなったのではと考えている。
ナイターは合併後に使用料が高くなってしまい、利用を控えるようになった
- ・ 吉井町のサンパークの野球場は国体後に料金が高くなり、利用者が減少した。

■非常時の対応について

非常時の使い方等、安全性や防災性という観点から施設を考えることも重要だ。

- ・ 施設が非常時にどのように使われるのか、例えば、川が氾濫した場合はどこの施設に避難するのか、地域の防災拠点はどこか、といったことが資料としてあると良い。
- ・ 地震・津波などに対する安全性という課題や、将来を見据えた老人ホーム建設等に対応できる計画を作成すべきだと考えている。
- ・ 安全性の問題や将来を見据えた計画は、佐世保市による説明が必要である。

■避難所配置について

水害や津波等、災害に対する心配が増している。公共施設には、自然災害が起きた際の避難場所としての機能も期待されるが、施設の安全性と、避難しやすさ（距離感）を踏まえて、どこの施設に避難場所としての機能をもたせるか考える必要がある。

- ・ 九州北部豪雨の災害を見て、改めて水害や津波の心配が増した（吉井、鹿町等）。山の上の溜池の決壊も想定される。
- ・ 災害の場合、どこに避難するのか、避難所となる施設の安全性も示してほしい。災害に対応できないと思われる施設もある。
- ・ 避難場所が遠くに設定されている地域では、より近くへの避難を検討できると良い。
- ・ 山の形状や道の広さを踏まえて、人口が集中しているところから優先的に検討することも考えられる。
- ・ 佐世保市と合併してから、消防団の対応範囲に変更があった。

以上